

IAjapan IoT推進委員会 IoTビジネス検討WG活動報告

— 2015年9月~2016年2月 —

IA *japan*

2016年3月3日

一般財団法人 インターネット協会

IoT推進委員会

IoTビジネス検討WG

座長 佐々木一人

〔株式会社インターネット総合研究所〕

IoT推進委員会の設立趣意・目的

『情報通信産業とその利用産業分野（建設業、運輸業、製造業、農業、医療など）との接点を持ち、それぞれの産業分野での課題を共有した上で、ビジネス創造の場とする。』

IoTビジネス検討WGの目的

会員企業相互の交流を図りつつ、適用分野の整理と課題を共有し、先行事例を踏まえながら、ビジネス化検討の支援を行う。

IoTビジネス検討WGの目指す姿

他のWGと連携を図りながら、IoTビジネスの創生を目指す。

IoTビジネス検討WG参画メンバー

- 会員2016年2月末時点のIoTビジネス検討WGの参加メンバーは18社（28名）、オブザーバーは5団体が参画。

《メンバー》

株式会社インテック
 株式会社インターネットイニシアティブ
 株式会社インターネット総合研究所
 EMCジャパン株式会社
 NTTコミュニケーションズ株式会社
 エブリセンスジャパン株式会社
 Canonical Group Ltd.
 KCCSモバイルエンジニアリング株式会社
 株式会社ティージー情報ネットワーク
 株式会社DTS
 日本インターネットエクステンジ株式会社
 株式会社日本レジストリサービス
 BizMobile株式会社
 フリービット株式会社
 ヤンマー株式会社

《メンバー ～続き～》

三菱電機インフォメーションネットワーク株式会社
 株式会社LIXIL
 株式会社リコー

18社

《オブザーバー》

総務省 情報通信国際戦略局 通信規格課
 経済産業省 商務情報政策局 情報経済課
 株式会社産業革新機構
 一般社団法人iOSコンソーシアム
 一般財団法人インターネット協会（他WG座長含む）

5社・団体

《事務局》

株式会社ブロードバンドタワー
 株式会社インターネット総合研究所

2社

合計23社・団体

- 2015/9/4 : 第1回シンポジウム〔場所；TKP赤坂駅CC〕
 - WG活動計画の報告と参加者募集
- 2015/10/7 : 第1回WG〔場所；(株)BBT大会議室〕
 - 副座長選任、活動内容等に関する意見交換と承認
 - 適用分野の整理と課題に関する意見交換
- 2015/11/6 : 第2回WG〔場所；(株)BBTボードルーム〕
 - IoTの課題の共有
 - 先行事例（メンバー企業の取組み例）の発表と意見交換
- 2015/12/7 : 第3回WG〔場所；(財)インターネット協会会議室〕
 - 先行事例（国内外のトピックス）の発表
 - 課題の整理・検討、意見交換
- 2016/1/27 : 第4回WG〔場所；(株)BBTボードルーム〕
 - 他WG（実証実験、デバイス・PF）の活動状況説明と共有
 - 先行事例（ユースケース等）の発表、意見交換
- 2016/3/3 : 第3回シンポジウム〔場所；エムワイ貸会議室〕
 - WG活動報告

1. 適用分野の整理と課題の共有

➤ 適用分野・領域の洗い出しと適用時の想定課題について整理、共有する。

課題	優先順位	時間係数	実現・達成方策	具体的取組み	固有/共通
製品の設置、継続的な稼働に係るコストを低減させる	◎	長期	自動設定 自動故障検知	製品制御技術アップ M2M	共通
各種業務システムとの連携・統合	○	中長期	実証実験WG設立	・戦略タスクフォースの組成・運用 ・規制緩和や制度環境の整備	
プライバシー・権限設定、これに伴う認証等	◎	短期	セキュアなデータ収集・蓄積への対応	・技術検証/実装 ・アライアンス	・要素技術の ・デバイス/GW
適正な市場競争環境を実現する	◎	短期	社会インフラ適用時の信頼性(対故障性)	・アライアンス ・技術検証/実装	・関連技術の実装、検証
初期投資負担のハードルを低くする	◎	中長期(2020年の東京五輪まで)	ビジネスモデル創出の人材育成	IoTでつなぐ対象(重要インフラや製造物)のサイバーセキュリティ対策	・制御システムセキュリティ試験研究用ベットの構築(必要に応じて国の事業) ・サイバー攻撃の防御/検知/対策技術の実装 ・疑似的なサイバー攻撃ソフトなどを用いた耐性テスト
従事する人材の確保	◎	短期	データ活用の多様性への対応	ゲート入退情報、防犯カメラ映像、音声情報などを人工知能で自動解析し、平常時と違う異常な状況や挙動不審者を早く見つける	・DeepLearning等の技術を用いて、カメラ映像とマイク音声のデータをもとに、異常を自動検知しアラートを発報する仕組みを構築 ・駅のホーム、電車の中、空港など、不特定多数の群衆が集まり、喧嘩・盗難・事故・自殺・忘れ物などがよく発生する場所で、フィールド実験を行う
	◎	中長期	故障パターン検知アルゴリズムの構築	製造装置・動力機械などに内蔵されたセンサーのデータを長期間蓄積し、異常発生直前のデータを解析することで異常を予測できる要素を見つける	・製造物(部品の摩耗や故障の頻度が高い製造装置や動力機械等)の動作ログ・操作ログ(数年分)を入手 ・ログデータを機械学習エンジンなどで解析し、平常時と異常時の特徴を抽出 ・別のデータを読み込ませて予兆を検知できるかテスト ・実際に稼働する設備のデータをリアルタイムに解析し異常を予測できるか実験

IoTビジネス!?

どんな適用領域?、市場は?
他の事業者はどんな取り組みを?
どんなビジネスが創出できる?
顧客はどんな変化が?
アライアンスモデルは?
etc



適用領域と課題共有・検討
事務局から複数の検討用シート(テンプレート)を提示し、メンバー間で情報や意見を持ち寄り、相互検討を繰り返しながら推進!

2. 先行事例の整理検討

➤ 日米欧における先行事例について、その内容と特徴を整理するとともに成功要因に関する検討を行う。

◆ **メンバー並びに事務局の協力・協調を得ながら、以下のテーマでメンバー等から、注目すべく先行事例や自社の取り組み状況について発表。メンバー相互の情報共有、並びに、意見交換を実施。**

- 「センサーノードによるソーラーモジュール監視」; KCME(株) 北田氏
- 「IoT/M2M関連の取り組みについて」; ヤンマー(株) 大林氏
- 「IoTビジネスにおける課題と対応」; (株)ティージー情報ネットワーク 小栗氏
- 「IoT共通プラットフォームのご紹介」; (株)インテック 廣海氏
- 「国内外のIoTビジネス先行事例」; 事務局
- 「IoTの事例ご紹介」; 日本インターネットエクスチェンジ(株) 中川氏
- 「IoTの分野における取組のご紹介」; NTTコミュニケーションズ(株) 境野氏
- 「リコーにおけるIoTへの取り組み」; (株)リコー 小川氏
- 「ESIの事業紹介-参加型IoTプラットフォーム-」; エブリセンスジャパン(株) 真野氏



3. 応用事例の検討(ビジネス化の支援)

➤ 『実証実験WG』や『デバイス・プラットフォーム検討WG』の推進状況を踏まえつつ、先導的な取り組みを図る際に必要となる各種の支援策に関して検討を行う。

◆ 第4回WGにおいて、今後のWG間連携を見据え、実証実験WG(WG2)の真野座長、並びに、デバイス・プラットフォーム検討WG(WG3)の小畑座長(ビジネス検討WGのメンバー兼任)から、現状の取り組み状況についてレクチャーを受け、情報共有を実施。

◆ その後、メンバー、並びに、オブザーバー、事務局も交え、質疑応答や意見交換を実施。



実証実験WG(WG2)は、具体的なビジネスに向けて、当WGの**重要な出口**の一つ。また、デバイス・プラットフォーム検討WG(WG3)は、プラットフォーム、セキュリティに関する標準規格(デファクト/デジュール)等を検討していることから、『**技術+制度**』の**推進方策**面としても連携強化が重要。各座長の他のWGへのオブザーバー参加も含め、さらなる連携強化を推進していくことで合意。

- これまでは、課題認識の共有、先進事例の共有、他WGの推進状況等、メンバー間での情報共有や認識合わせを中心とした活動を展開。
- スピードの経済性が求められる今日のIoTビジネスでは、実証・実装を踏まえた協調・共創展開が鍵に。
- ステージアップを図り、協調・共創型ビジネスの実現を目指して、ビジネス検討WGも次なるステージに向けての展開の加速化を。
- 展開方策の一つとして、ビジネス検討WGの下に、複数のサブワーキング（SWG）を組成し、先導的かつ独創的、また、より具体的な取り組みを推進すべく活動を開始する方針（第4回WGで方針合意。具体的なSWG活動については、明日開催予定の第5回WGの場で議論する予定）。
- 課題や事例の情報共有ステージから、実ビジネス組成に向けたステージへ、その第一歩を踏み出すとともに、IAJapan（IoT推進委員会）内外との積極的な連携も図りながら、成功モデルを目指す。

- (般財)インターネット協会の会員で、IoTビジネスの創生に興味を有していること。
- WGメンバーとして積極的に活動する意欲を有し、WG活動の推進に協力的であること。
- WG年間活動スケジュールに示す各会合に参加、もしくは代理参加し、協働可能なこと。
- WG内における情報等の取扱について合意可能なこと。
*WG活動の中で利活用した情報等については、原則関係者外秘扱いとし、活動報告等の公表については、WGで承認を得た上で実施。

是非一緒にIoTビジネスの創生にチャレンジしましょう！

IA japan